

IT21 の会（平成 22 年 5 月）第 143 回議事録

日 時：平成 22 年（2010 年）5 月 14 日（金） 18 時 30 分～20 時 30 分

場 所：日本技術士会 葺手第二ビル 5 階 C・D 会議室

出席者：21 名

配布資料

- 1005-0 （社）日本技術士会 CPD 行事 参加票
- 1005-1 「研究開発と特許マップ」（大槻貴史氏）

議 事

1. 役員からの連絡および資料確認（加藤亨氏）

・石井一夫氏について、本人からの以下希望につき了承しました。

- 1) 広報委員は、前期（13 期）で退任。
- 2) 会員としては、会費（14 期）未納による自動退会。
→広報委員の募集が早急に必要です。

2. 講演（大槻氏）資料 1005-1

<テーマ> 「研究開発のための特許マップの考え方」

<目次>

- (1) 特許戦略論は本当か
- (2) 特許戦略とは
- (3) 特許マップでみたいもの
- (4) マップ化の意味
- (5) まとめ-先行特許から学ぼう

<概要>

長年、メーカーにて開発に携わり、その後、先行特許調査、特許マップ作成、特許調査教育等に携わってこられた大槻氏より、開発者の立場からの特許マップについて、目的に合わせた

特許マップの活用方法等についてご講演いただいた。

<ポイント>

(1) 特許戦略論は本当か

- ・ パテントポートフォリオは、事業戦略策定、開発戦略、知財戦略三位一体となったイノベーションの創出に活用。
- ・ パテントポートフォリオより、発明が他社と比べて進んでいるのか遅れているのか、発明がどのレベルの技術なのか知る。
- ・ パテントポートフォリオマネジメントとは、自社他社パテントポートフォリオ現状分析を用いたPDCAにより強化するか撤退するかを見極める。

その際に、3種の神器の一つとして、特許マップがある。

参考) 東京農工大学大学院 鶴見 隆 教授

マクロマップ―事業戦略に活用

ミクロマップ―特許網戦略に活用

(2) 特許戦略とは

- ・ 特許を活かすために出願する戦略
- ・ 特許ポジション別に、他社を排除する（周辺技術を権利化する）、周辺特許から他社の特許に入り、クロスライセンスを結ぶ、差別化とすみわけのパターンを作る等の戦略をたてる。

(3) 特許マップでみたいもの

- ・ 自社がその分野で、どの位置にいるか（先行、後追い）
- ・ 自社の発明と抵触する他社特許があるか
- ・ 技術的、マーケティング的に進んでいるか、遅れているか
- ・ 他社の技術方向と比べて自社の方向性はどうか
- ・ 何のために誰のために見たい立場によってマップの纏め方は異なる。
- ・ 開発者にとっての特許マップの意義と目的として、時間的技術的前後をさぐる、自己の強みを知る、他社回避等があり、開発の最初の段階で作成する。
- ・ 特許群を作成するにあたり、自分の分野のみでは守り、広がりがあれば攻めに利用できる。（開発者にはない見方）
- ・ 特許マップの作成の大目的として問題点の抽出が重要
<よその特許から自分の優位性、開発の方向性に活かすこと>
- ・ 開発用特許マップの見方と考え方として、課題と解決方法
課題に対する解決方法の会社による違いを知る。
- ・ 課題と解決手段の抽出と特許マップ作成例から、

重要なニーズや課題は何か、課題に対してどのようなアプローチがあるか等、解決法、課題をさぐる。

(4) マップ化の意味

- ・ 競合他社との比較が重要
- ・ 動向調査のための特許マップ作成手順として、
検索ソフト（NRI等）では、概念検索から、用語が拾える。
- ・ 特許マップソフトでなくとも、マイクロマップの組み合わせ等一つの方法にこだわる必要はない。
- ・ 発明の評価項目として、引用回数が多いか、問い合わせ回数等を点数にして評価。
- ・ 特許マップで何を見るか（第3者が見ているものは何か？）は、現状認識、今後の進め方等である。
- ・ 対象物を別の観点からみることで、請求の範囲は変わる。
すなわち、一つ上のレベルで考え直すと別の見方ができる

(5) まとめ-先行特許から学ぼう

- ・ 競合他社の特許に注目しよう。
- ・ アイディアのネタがないかさがそう。
抜けや見落とし上位概念がないか、置き換えがないかを考える。
先に考えて出願する。

結論-特許戦略は本当か

- ・ パテントポートフォリオで他社の参入障壁を作ると言うことは正しいか
○しかし、ある意味問題
→技術評価と特許管理コストも考えるべき
- ・ 参入分野で、他社の特許網があるとき、どう考えるか
→上位概念化して、余地があれば参入する
- ・ 特許網構築とは何か
→競合相手の欲しがる関連分野の特許を出し続けること
※100パーセントシェアは無理。
有利にすみわけをしていくように特許網を構築していく

結論2

- ・ 特許から開発のネタをさがす。
ついでにもうちょっと
- ・ 上位概念化し、他のものがないか考えよう。

<質疑応答>

Q：開発者の立場からの特許マップ以外に特許マップに形態はあるのか？

A : いろいろあり、特許庁の HP に事例集があり、マクロマップに関しての詳しい情報が記載されている。また、経営的分析の手法等もある。

参考資料「知的財産戦略に資する特許分析事例集」

3. 13期定期総会（議長：佐野庄一氏）

議案 1. 13期の活動及び会計報告

・活動報告（加藤亨氏）

技術士会への活動報告書をもとに平成 21 年度の活動報告がなされた。

-月 1 回の定例会及び 2 月合宿にて目的達成。（活動記録資料添付）

-HP 運営により、加入者拡大。

-成果として、延べ 188 名の参加者あり。

-運営面での改善として、SNS での名簿の反映及び一元化あり。

-技術士会への報告は、4 月-3 月と IT21 の期と少し異なる。

・収支報告（山下真吾氏）

収支報告（暫定版）をもとに報告がなされ、賛同された。（5/31 まで 13 期で計上）

-会費は、例年のように 1 割退会により、9 割回収。

-誤植が 2 件を修正し、最終報告は 6 月。

-繰り越しは、8 万円程度増加。還元が必要？

-20 名の方が、退会扱い。

議案 2. 14 期役員選挙（選挙管理委員長：工藤氏）

立候補はなく、投票により選出がなされた。

一回めの投票により、1 位 1 名、2 位 1 名、3 位 3 名となったため、

3 位について 2 名を絞る決選投票がなされた。

結果、以下の方々が選出され、同意確認のうえ、決定する。

第一位 横井 弘文 殿

第二位 山下 茂雄 殿

第三位 田中 茂 殿

第三位 矢田 美恵子 殿

次点 河野 進 殿

詳細は、別途 ML にて報告あり。

4. 初参加の方の自己紹介 6 名

以上（記載者：平塚 由香里）